あとがき

今回は鈴木久雄彫刻展である．展覧会のサブタイトル――鉄積みの作品を中心に――にもあるように鉄または石の小片が積み上げられた作品が主体で1982から86までの近作10点余が展示されている．

これら積み上げの作品をみた時，私はすぐさま，マン・レイのサド侯爵の肖像画が思い浮んだのである．鈴木久雄（1946～）さんにあなたはシュルレアリスムの意識があって作品を作られているのか，ときいたところ，鈴木さんは全く関係ない，無関心であるとの明快な返事があり，そのことが私には大変印象的であった．ただ，私にはこの鈴木久雄の作品の魅力のひとつは彼の意識せざるシュルレアリスムのにおいにあると思っているのである．

それに鈴木久雄の作品は作者の強い意志と集中力に溢れていることを感ずる．手を汚さないでキレイに仕上げるというやり方とは対極のものである．自分自身の手によるタタキ（鍛造）の行為が根底にあり，したがって強い．しかし粗野ではない．それに，鉄という素材の美しさを見事にひき出している．空中に浮んだ城塞のごとき鉄片の集積をみて，ここ数年鈴木さんの仕事をみてきた私には，確実に鈴木久雄の仕事の内容が充実して来ているのを感ずるのである．それは私にとって大変嬉しいことで，一層の精進を期待したいと希うものである．

なお，鈴木さんは画廊での展覧会は今回が初めてであると言う．キャリアのある作家としては珍らしいことなので，一言，申し添えて置きたい．

この展覧会カタログのテキストは彫刻家の建畠覚造さんにお願いした．建畠さんは鈴木さんの大先輩で，十数年来，鈴木さんの仕事を注目して丁寧にみてこられた方である．心のこもったテキストをご寄稿いただいたことに感謝している．ありがとうございました．

1987年2月15日

佐谷画廊　佐谷和彦